

【七十歳からの挑戦】

市川 敏子

私達夫婦は定年後、環境のよいところで余生を送りたいと大幡に住居を定めて十年になります。もともと私は大幡の生まれですから幼友達もおり、主人も土地の人々と早く溶け込むことができました。

当地にきて二カ月近く過ぎたころゲートボールを勧められ、友達づくりが出来たらいいと夫婦で入会、審判の資格を取り人々との交流が生まれ楽しい日々を送っております。

平成七年の春、老人大学、十年にことぶき勸学院、十二年にことぶき大学院に二人で入学、七年間お世話になり、講義を聴き、見聞を広め、有意義なシンポジウム、文化祭、北麓公園でのグラウンドゴルフ、一泊旅行など充実した学生生活を送り今年の三月卒業するまで、一日も欠席することなく、元気で学ぶことができました。その間、素晴らしい仲間に出会えたことは、私にとってかけがえない財産となり、これからの人生にプラスになることでしょう。

十四年度より再度老人大学に入学、月一度の登校、友との出会いを楽しみにしております。

七十歳の春、卒業文集を出すこととなり、あまりにも字が拙くワープロが出来

たらいいのと言ったことがきっかけで息子が正月帰省の折にワープロを持ってきてくれ、二晩教えを受けました。文字入力を毎晩練習、字の位置を覚え、二週間程してはじめてA四版の用紙に入力、息子に手紙を書きました。上達するには手紙を出すことが一番

と思ひ、孫や知人に迷惑も考えず便りを出しました。その後、市の広報でパソコン講座のあることを知り何回か指導を受けました。今年六月にパソコンクラブに入会、月二回の学習を楽しみにしています。加齢とともに覚えが悪く迷惑をかけることばかりですが、試行錯誤しながら少しずつ、少しずつ進歩しています。

定年後十二年、過ぎてみればあつという間の六十代でした。残された人生、元気で充実した日々でありたいと願っております。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【青少年赤十字活動】

泉 浩

教員という職業柄でしょうか、私のこれまでの学習とは、「教員達とともに学んできたこと」に尽きるように思えます。

一人の国語教師として、例えば山本周吾郎の作品を教えるときには氏の作品をできるだけ多く読み、魯迅の作品の時には……というように。また、書道を教えるためには高名な寒鵬先生の所へも随分通いました。しかし今振り返ってみるとそれは単に教えるためだけでなく、私自身の楽しい学習でもあり、仕事との区別なく常に夢中にさせられたものでした。

そんな中にこれこそライフワークと感じて子ども達と取り組んできた学習の一つに『青少年赤十字』活動があります。それは教員になって三年目に先輩の教師に誘われて学習し始めたものですが『人道・博愛』の精神に基づく「優しさ」や「思いやりの心」をモットーとする活動。「他の人の痛みを如何に軽減するか」をテーマとするその理念は、私にとって本当に新鮮で魅力あるものでした。

さらに、三大目標として掲げる『健康・安全』・『奉仕(ボランティアサービス)』・『国際理解・親善』は、現在の子どもの教育課題にもそのまま通じるものでもあり、合わせて「気持ち、考え、実践する」という行動目標は、今回の新教育課程改定の目的と全く意を同じにするものでした。

以来、私は常にその斬新さと先見性を誇りとし、それらを私の考えのバックボーンとして三十年以上活動し続けて参りました。さて、司馬遼太郎さんが子ども達に書いた「二十一世紀に生きる君たちへ」というエッセーがあります。歴史や自然から学ぶことの教訓をやさしい文章で書いてありますが、その中に、若い世代が身につけるものとして、①いたわり②他人の痛みを感じる③やさしさの三つが上げられています。

私は未来に羽ばたく子ども達に役立つために、今後もさらに学習を深めたいと考えております。

